

「5 台風がちかづいてきたら」

- 学習のねらい：1. 台風により、自分の身の回りに起こるさまざまな危険を知る。
2. 状況ごとの適切な危険回避の方法を知る。
3. 地域の台風による災害歴史を知る。

(指導上のポイント)

- ◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。
- ◆大雨の時、強風の時、雨が上がった後の各場面で、どんな危険が考えられるかを発表させる。
- 【大雨時】
 - ・河川氾濫、がけ崩れ 等
- 【強風時】
 - ・落下物、飛来物 等
- 【雨上がり時】
 - ・川、水路増水、切れた電線 等
- ◆絵に描かれている危険の他に、土砂災害（地すべり、土石流、がけ崩れ）、高潮などが考えられるが、地域の実情に応じて指導する。
- ◆各自が登下校時や外出時のよく行く場所で、どのような危険が発生するかを考えさせる。
- ◆台風が近づいてきた時における身を守る方法について指導する。
 - 例) むやみに外に出ない。
 - 一緒にいる大人の指示に従う。
 - 気象情報に注意する。 など

(次年度以降の展開例)

- ・実際に地域を調べて危険な箇所や避難場所を明らかにするとともに、避難方法を指導する。
 - ・伊勢湾台風等の被災者体験談を読み聞かせる。
- などが考えられる。

5 台風がちかづいてきたら

(1) 台風で きけんなこと

台風が やってきたら、どんな きけんな ことが おこるでしょうか？
下の えとしゃしんを みて かんがえて みましょう。



洪水、堤防決壊、屋根や看板等が吹き飛ぶ、家の浸水、車の水没、暴風、高波、高潮 等

【台風でおこったこと】

ガラスが われた しょくいんしつ



あふれだした 川



おしよせた つぶ 土や石



(指導上のポイント)

- ◆大雨による土砂崩れ、洪水、高潮による浸水等の危険が迫ったと判断される場合は、高所、高台などの安全な場所へ避難することを指導する。
- 状況に応じて、学校においては上層階へ、家においては2階などのより安全な場所への垂直避難を説明する。

(2) 台風におそわれたら

台風におそわれたら、どうしたらよいでしょうか？
下のえをみてかんがえたことをかいてみましょう。

いえに水がながれこむ



・ 2階へ避難する。

どうろが水びたしになる



・ 道の真ん中を歩く。
・ 棒を持って歩く。

はげしい風がふく



・ 落ちてくる物や飛んでくる物に気をつける。

山がくずれる



・ 土砂災害現場から離れる。

ちいきでおとった災害についてきいてみよう

これまでにみえけんにやってきた台風のひがいに
ついて、きいてみましょう。

例) 伊勢湾台風

死者 5,098 人 (三重県 1,281 人)

浸水家屋 363,611 棟 (三重県 62,655 棟)

全壊家屋 40,838 棟 (三重県 5,346 棟)



さいはんどう 大水がい

(指導上のポイント)

◆あらかじめ予測できる災害である台風は、事前の準備ができるので、テレビなどで情報を得るなどして安全な場所へ早めに避難することを指導する。

◆左記以外の各自がよく行く場所での危険回避方法についても考えさせる。

◆各回答の補足説明

(左上) 豪雨や夜間の場合など、避難所までの移動がかえって危険な時は、近隣のより安全な場所へ移動するか、自宅の2階以上(垂直避難)に移動する。

(右上) 冠水で側溝や蓋がはずれたマンホールなどに気付かないことがあるので、長い棒等を杖にして安全を確認しながら進む。

(左下) むやみに外へ出歩かない。

(右下) 急いで土砂災害現場から離れ、近くの安全な場所に逃げ込む。

(指導上のポイント)

◆地域で過去に起こった災害の歴史を知っておくことが災害予防につながることを指導する。

【紀伊半島大水害エピソード】

台風第12号は、平成23年9月1日から5日朝にかけて、三重県南部や奈良県、和歌山県を中心に、長期間にわたって激しい雨をもたらし、各地で浸水被害や土砂災害が発生しました。

この結果、県内では、防災関係機関の懸命の救助活動にもかかわらず、2名の方が犠牲となり、1名の方が行方不明となっているほか、住家被害が2,763棟におよぶ大災害となりました。

浸水した中学校や高校では、学校の早期再開に向けて、生徒が泥掻きや清掃活動を行いました。

(確認)

台風にはさまざまな危険があることを知り、身を守るために大切なことを理解できたか。